

1946年南海地震で発生した地震波と地殻変動

Seismic Waves, Crustal Deformation, and the 1946 Nankai Earthquake

Phil Cummins[1], 堀 高峰[2], 亀山 真典[3], 平野 聡[1], 馬場 俊孝[2], 金田 義行[3]

Phil Cummins[1], Takane Hori[2], Masanori Kameyama[3], Satoshi Hirano[1], Toshitaka Baba[3], Yoshiyuki Kaneda[4]

[1] 海洋科学技術センター・地震フロンティア, [2] 海洋センター・フロンティア, [3] 海技センター・フロンティア

[1] Front. Res. Prog. Subduct. Dynam., JAMSTEC, [2] Frontier, JAMSTEC, [3] FRPSD, JAMSTEC, [4] JAMSTEC, Frontier

1946年南海地震の地震波形解析の結果と地殻変動の再評価を報告する。

南海地震の破壊域は一日後の余震域と同じ範囲、即ち、地殻変動が起きた領域の半分程度であることが波形解析からあきらかになった。また、西部の地殻変動はプレート境界の滑りではなくスプレー断層の滑りで説明できる。これらの結果を考慮すれば、1946年の南海地震は簡単なプレート境界地震ではなくて、二重的な地震だと考えられる。プレート境界の破壊は、紀伊半島沖の開始点から室戸岬の東まで伝播し、そこで止まった。それが、室戸岬の西に位置するスプレー断層をゆっくり滑べらせた。

1946年南海地震の地震波形解析の結果と地殻変動の再評価を報告する。

南海地震の破壊域は一日後の余震域と同じ範囲、即ち、地殻変動が起きた領域の半分程度であることが波形解析からあきらかになった。また、西部の地殻変動はプレート境界の滑りではなくスプレー断層の滑りで説明できる。これらの結果を考慮すれば、1946年の南海地震は簡単なプレート境界地震ではなくて、二重的な地震だと考えられる。プレート境界の破壊は、紀伊半島沖の開始点から室戸岬の東まで伝播し、そこで止まった。それが、室戸岬の西に位置するスプレー断層をゆっくり滑べらせた。